

令和6年度 松江市立松尾会館運営審議会議事録

1. 開催日時 令和6年8月5日（月）15時00分から16時00分まで
2. 開催場所 松江市立松尾会館
3. 出席者 委員（9名）
赤木直行、石塚勝朗、坂根真木乃、伊藤健一郎、森尾文彦、
吉田茂、坂本和子、比良幸男、与倉恵子
松江市（5名）
石倉昌志、池田修、村上幸人、矢田英之、板持努
松尾会館（3名）
森下勇、仲村由里、大北能生
4. 会長あいさつ（赤木会長）
5. 開会あいさつ（石倉松江市市民部長）
6. 自己紹介
7. 審議会の成立
委員10名中、9名の出席により審議会が成立していることを報告した。
8. 議長選任
会長が議長を務めることを確認した。
9. 議事録署名人の選任
議事録署名人には森尾委員、与倉委員を選任した。
10. 情報公開について
松江市情報公開条例第30条に基づき、審議会の議事録は公開とすることを周知した。
11. 議事
 - （1）令和5年度松尾会館事業報告
 - （2）令和6年度松尾会館運営方針（案）
 - （3）令和6年度松尾会館事業計画（案）

1 2. 審議の経過

(1) 令和5年度松尾会館事業報告

館長が資料に基づき説明を行った。

【質疑・意見】

(委員)

今館長さん言われましたが、空き家対策について、相当多いわけですが、地区として、どこも空き家があるわけですけど、廃屋とか、どうにもならない空き家があると思いますが、そこで、これは松江市が何か整備できませんか。

(松江市)

正確な情報を持ち合わせていないのですけども、危険な空き家については、補助の制度などもあります。住宅政策課というところがございますので、そちらの方に、ちょっとこういう家があるのだけでも危なくて、例えば皆さんが通られて危ないというようなことがあれば、ご相談をいただけるといいのかなと思います。

(委員)

館長さん調べられたけど、市として、実態調査をしてもらえるだろうか。

(松江市)

これも聞いた話ですけど、市が空き家の調査をするに当たると、個人情報の関係で、入り込めないところもどうも出てくるらしいのです。市の方がやってもですね。

町内の方でやられても、町内も個人情報のことがあって、あまりその正確なところだけはどうしても聞き取りというようなところに頼らざるを得ない、ということは聞いています。その辺のご懸念も含めて、ご相談をいただければ、何らか道筋が見えるかもしれませんので、それは会館通してでも我々の方へおっしゃっていただいても構いませんので、ご相談いただければと思います。

(委員)

将来は館長さん、整理していかないといけない。このままほったらかしにして、だんだん廃屋になる、人は住んでいない。個人情報もあるけど。その辺は町内の協力も必要だし、なかなか難しい面がある。

(会館)

いろいろ調査をした中で、最近ちょっと空き家になっている、もしくは今もう別のところで暮らしているというか、施設等にお入りになることもありますし、そういうケースだとまだ連絡できる方がはっきりしていると、ただ、もうすでに先ほど言った地図から名前が消えている方とかになるとなかなか連絡もつかないということを知

ました。聞き取りです、これは。それと、あとは個人の所有地であるというあたりに対して、先ほどの危険であるということに対しては、何がしかの働きかけができる可能性はあるのですが、もう更地にして草が茫々と生えているとか、柱だけ残っているようで特に影響がないケースだと、なかなか、近所の人によっぽど危ないと言わない限りは、ちょっと動きづらいかなというふうには、私の感想ではございますが、結構そういうお宅がやっぱりありまして。

(委員)

今の状況では危険な建物はないと。

(会館)

今、目視でどうかというと、人が歩く道で多少傾いているかなというのは、見たのはあるのですが。ただ私の方から、ここ危険ですと市に言う訳にはなかなか言いづらいところがございますて、やっぱりそこに住む住民の方から受けたら話は当然していただくのですが、ということですね。

(委員)

雑賀地区でもあります。何年も市の方に危険だということで、出しましたけど、なかなか住んでいらっしゃったりとか、所有者があつて、すぐにとすることはできなかったのですが、お亡くなりになって、そのあと、継がれなかったのか、壊されたりとかってというような、先月、市のさっきの建築関係、空き家対策の課の方に来ていただいて、空き家対策について話を公民館でしたのですけれども、そういった補助的なこともありますけど、何よりもとにかく、継がれて権利を持っている方が明確なときでないと、法律が変わりましたので今はなりましたけど、こういうときでないと、さかのぼっていってしまうとなかなか処理ができないとか、或いはまとめて、広い土地になれば何とかなるけれどもとか、いろんなその条件があつたりして難しい。市の方では水道が1年間使われてないとか、そういうところを、水道局のそういったデータを持ちながら、松江市の中の空き家がどれぐらいあるかっていうようなデータを作ったりはしていました。ただ、なかなかそれと実態、さっき言われたように本当に住んでいる、住んでいないとか、いうところの状況ははっきりしないようですけれども、松尾地区だけじゃなくて、雑賀の他のところでも空き家、特に持ち主がはっきりしないとか、ということについては今後の大きな課題になるかなというふうに感じております。

(委員)

おっしゃる通りです。なかなか難しい問題でね。財産、権利等々、県外に出ておられる、亡くなられた。難しい問題です。ここだけではなしに松江市全体の話。

(委員)

今確かに差し当たって家のことも問題なのですが、1ヶ所、私の家の周りに何軒か家があるのですが、そこを囲む、もう何軒かあるところの、この上になかなか巨木があります。それが家の斜面に立っている。ちょっとした崖みたいになっているところの斜面にその巨木が立っておりまして、それを刈っても倒れたら私の家の周り全部つぶれます。間違いなく。

私は中学生のときに、そこが崩れたのですね。この斜め前のところですが、ものすごい音を立てて崩れました。ちょうど家にいたので、音がして、おっと思って飛んで出たらもうえらいことになっていましたので。そこは今もう法面がしてあるのですが。私のちょうど後ろの木がだんだん成長してきておりまして、何とかして、とは思いますが、電線にかかっている分に関しては中電さんが来て、切ってくれるのですが、あとはもう市の方に調べていただいても、要するに手が出せない土地だって言われるわけ。要するに私有地だということ、平たく言えば。なので、市としては全く手が出せない。ただ、今年のような、ああいう日御碕が崩れたような、ああいう雨が降ると、実際問題もう毎日毎日、びびって生活しています。ただ、幸いなことに、今はもっていますけども、多分もう、家もそうですが差し当たって、家はいつ頃に4軒も5軒も崩れることはないので、そこはまず何とかどうにかならないものなのかなっていうふうには考えてはおります。もし皆さんの中で何かその、私らがどうのこうの、されているような何かお知恵があればお貸しいただけたらなというふうには思っています。

(委員)

市としては、倒木がある可能性の木とかいうのは、公費で伐採するとか、いうことはできないですか。

(松江市)

一般的には、個人の方の土地にあるものを、何でもかんでもってということには、基本はならないと思います。ただそれが、危険性がどの程度なのかについていうことについては、前にもご相談、お伺いになったことだと思いますけど、ご心配であれば、また話してみただくのがいいのかなと思います。ただ基本はやはり個人の方のところについては、なかなか税金で、この人のところの木だけでも危ないから切ってしまうということが、道路にかかっていると、法律が変わったそうで、道路に出てきた部分だけは切ってもいいみたいな話にはなっているみたいですが。それが個人個人の間でもそのようになっていっているらしいのですが、私もうろ覚えで申し訳ないのですが。

ただ、今のお話をお伺いしていると、具体的にご相談をしていただくしかないのかなと思います。

(委員)

危険地帯だから、全体が。もう周辺でもね、災害がいつ起きてもわからないような、大雨でもね。みんな私有地で関わっておるから手が出せないような状況だからね。危険ということになれば、なんとかいい方法はないだろうかな。命が大事だから。

(委員)

また必要があれば相談させていただいてってということで、もしあれだったら、町内の要望をお出しいただくという形で。

上述以外の質疑・意見なく、委員の承認を得た。

(2) 令和6年度松尾会館運営方針(案)

(3) 令和6年度松尾会館事業計画(案)

関連があるので館長が一括して資料に基づき説明を行った。

【質疑・意見】

(委員)

どこの地区も一緒なのですが、少子高齢化になっておりますが、会館の事業計画として、お年寄りが多いですわね、そういう点で、何か一緒にここで言う事業とか、そういうものは考えておられますか。椿の会があるのはわかっているのだけど、それ以外に何か特別にお年寄りさんと呼んで。

(会館)

今予算上つけていただけるものがありまして、ここで集まっていいただいて健康教室とか、文化交流事業、教室とか、そういうのをさせていただいて、ご案内させてもらえたらと思います。

あとはカフェにも来ていただいているのですが、なかなかたくさんの方が来られない状況があります。近年ここまで来るのもしんどいという方がいて、ひよっとするともう迎えに行かなきゃいけないような状況もありまして、ちょっと辛いっていう方が、何とかアイディアを出して、またご意見をいただければと思います。

(委員)

僕はこどものとき、小学校低学年から真ん中ぐらい、今から大体50年ぐらい前ですね。そのときに、僕は10歳ぐらいにこの会館が建っているの、その時にはあったかどうか覚えてないですけど、とにかくこの辺の人っていうのは、全部2つ3つぐらい上のお兄さんらが全部下の子を連れて歩いた。野球する、それから何するにも全部夏休み中、その子ら連れて歩いて、こどもら連れて歩いていろんなことを教える。いいことも教えりゃ、悪いことも教える。勉強だけ教えてもらったことないのですが。そ

れがいまだに、この上下の関係っていうのは、もう 50 歳になろうと 60 歳になろうと 70 歳になろうと、いまだに仲のいいままずっといる。

僕が小学校のとき、こども会みたいなものがあった、近所の大人が集まって、学校の先生とかじゃないですよ、近所の大人が集まって、こどもたちに肝だめしさせたりとか、それから、怪談話を、前の保育所、上の方に保育所があったときに集めて、何かしたりちょっとしたゲームしたりみたいなことやったのです。

前は保育所って確か、お泊まり保育とか、ありましたよね。今もうさすがにコロナがいろんなことを変えてしまったので、もうなくなってしまったものを追いかけてもしょうがないのですが、変わってしまったものを追いかけてもしょうがないのですが、僕はもしできるならば、今こどもたちって、もう何歳か離れてしまうとまったくもって誰が誰だかわからない。僕たちの時代みたいなことはもう、全くもってないわけです。うちの親戚もそう、うちの親戚、いとこっていう代はみんな仲がいい。でも、うちのこどもたちの世代になるともう、もうそのいとこのこどもたちはもう、あれが誰かわかんないっていう世界になる。それなんでかっていうと一緒に遊ばせないから。

多分そのこども、例えば新町のこどもでも、栄町のこどもでも、松尾のこどもでもいいのですが、もしできるならば、たまに集めて、お泊まり保育ではないですが、そういうことでもお父さんお母さんたちの力を借りてできれば、またそれはそれでおもしろかったりするのかなと。

僕は中学校のときに四中が前のとこだったんですが、生徒会館があって、中学 1 年のときだったかな、米もってこい野菜もってこいで、自分らでカレー作って、一晩泊まるのです。1 クラスが、一晩中何だかんだ言って先生に怒られたなんかして、それで結束を図るみたいなことなのだと思うのですよ。そういうのって今もうさすがにコロナになってしまったもので、それから、こういう公共の施設、それから保育所の先生方、学校の先生方に対する親からの、今もうプレッシャーがものすごいもので、なかなか難しいと思うのですが、もし願わくはできるのであれば、そういうこともたまにできれば、僕はまた嬉しい。こどもたちにとっても悪いことではないのではないのかなというふうには思っております。それは僕の願いであります。

(会館)

経過はわかりませんが、こども会事業はこの会館事業の中でも以前からあったのですが、ほとんどこどもがいなくなったのと、それに併せて予算もつかなくなったということで、会館を中心として今活動というのがなかなかできにくくて、今なかよし広場っていう形でやっておりますけど、実はこれについても、なかなか活動費の捻出も苦戦しております。

今年は島根県からの支援事業が始まりまして、こちらを活用して、正月明けにやっている書初め、餅つきの機械が買えるよう準備しているところです。先ほど委員さんから言われた、こどもの拠点というのも 1 つ重要な部分でして、これは保護者の意向

もございますので、そんなことも会館は応援しますよという形で、何かできたらとは思います。

前年の邑南町で大きな事故があつて、こどもが亡くなりました。ウォータースライダーみたいにして滑って衝突して亡くなった件です。ですので、なかなか外へ出てきて活動ってなると保護者の相当な協力がないとできないのと、今現在、松尾町内に限定しますと、小学生が3人です。全体数が3町で21名と私は聞いております。一昨年から倍増しています。そのうち今小さい子たちが非常に多いです、3年生以下が。ですから、しばらく会館でもこのなかよし広場を継続させるのと、広場の発展系として、親さんと一緒に何か別な形をすとか、それは案外できるかもしれません。

ただ、お泊り、外へ出る話になるとまだまだ厳しいかなという気がしますけど、少しずつ親さんともっと会館等が仲良くなれば、ひょっとしたら何かできるかなとも考えております。

(委員)

しかしながら、こどもがたまたま増えたのですが、新町さん栄町さんも一緒なのですが、低学年で仲がいいということで、このなかよし広場でワイワイガヤガヤとやっておりますが、来年が2人間違いなく増えて、という感じですけども、その先の見通しは全く立っておりません。

またもしかしたら、元のようにこどもさんの数が減っていくかもしれませんが、雑賀小学校としては、3地区でこどもが急に増えたというのは、ちょっと嬉しいことなのですが、実は、保護者会の方から、お話がありまして、もうちょっと登下校の見守りをしてくれる人がいないのかと、そういう相談を受けました。今最終的には、8月の最後の日曜日にこちらの方を会場としてお借りして、そういった話し合いを3地区で話し合つて、いろんな案を出していただいて、松尾から途中までとか、あと新町の方が、今度は登校時の駐車場のところまで行きましようとか、そういう話し合いができるということがよかったかと思っております。例えば朝日とか、津田とか、見守り隊の人がすごく多くてびっくりするんですけど、やはり、松尾が一番まずいのでしょうか。松尾、栄町、新町、新町さんは確かお2人おられたはずですけど、今お1人しかおられないはずなのです。そういったこともあつて、私もぜひ見守り隊に協力しようかなと思つているところです。ですからこどもが増えたから、そういった話し合いがまたできるようになったことが、私は大変喜ばしいかなと感じているところです。

(委員)

今頃は乃木との交流がなくなったのか。

(会館)

令和 4 年にコロナで中止していた交流会をぜひしたいからということで、公民館の乃木の皆さんにお持ちかけして、その時はできたのですが、はっきり申し上げて、向こうもなかなか人集めがとか、あと、先立つものがないと、商品等々のことで、乃木さんには大変ご尽力いただきました。なかなか厳しい状況の中で、今後また考えましょうということで、今は中断しております。

(委員)

そうですか。できるだけ交流した方が喜ばれると思います。

上述以外の質疑・意見なく、委員の承認を得た。

13. 閉会あいさつ（伊藤副会長）